

今週月曜日まで4日間、出雲に行ってまいりました。毎年このシーズンに行くのですが、いつも曇天。「なぜ、こんなに曇りが多いんですか？」出る雲と書いて「出雲」。日本中の雲は出雲から来ると。ホンマかいな。今回は4日間とも非常に晴れて、素晴らしく爽快な気候の下での講演会でした。

講演の場所は朱鷺（とき）会館。「朱鷺」、漢字で書けますか。難しいですよ。「しゅろ」とも呼ぶそうですが「とき」。学術名は「ニッポニア・ニッポン」。

朱鷺会館のすぐ隣に朱鷺の飼育センターがあります。朱鷺は日本の天然記念物で、実は一度絶滅してるんです。日本の朱鷺はもういません。今日本で一生懸命飼育しているのは中国の朱鷺。でも、日本の朱鷺と中国の朱鷺を遺伝子情報で解析すると0.065%しか違わないそうです。私と皆さんの違いより、もっと少ないんじゃないですか？それで、日本のも一緒だという事で飼育をしていて、日本最大の飼育場所は佐渡島。元々佐渡に生息していたから。

では、なぜ出雲に朱鷺センターがあるのか？鳥インフルエンザ対策です。もし佐渡島1か所にのみ、天然記念物を集めて飼育していて、そこに鳥インフルエンザが入ったら全滅。何十年もかかって300羽くらいにしてきたのが、一網打尽で全部ダメになる。そこで最悪の事を想定して、離れた場所にも飼育場所を作るという事で出雲が選ばれました。これは非常に賢い方法です。

どうしても大切な守りたいものを守るには、最悪の事を考えて、それが起こった時に逃れる準備をしておく事がすごく大事。ですが、日本人はこれが余り得意じゃないと言われていています。安全保障の世界では。

日本人には言霊（ことだま）信仰がありますね。

暑くなるとクーラーとか使いますが、日本人の知恵に葦簀（よしず）があります。日陰を作るごのような、木の枝で編んだような物。葦（よし）で作ったから葦簀なんです、葦は元々「あし」と読みます。だけど「悪し/あし」に通じるので「善し/よし」と読もう。それで葦簀（よしず）になりました。なぜ「悪し」と読んではいけないか？「嫌な事を言葉にしたら嫌な事が起こる」という信仰があるから。

イカを天日干しにしてお酒のアテにする。それはスルメ。関東ではアタリメ。「スル」はギャンブルで負けてお金を失う事。嫌な事を口にするると嫌な事が起こる。スルメを食べるたびに運が悪くなる。だったら反対の意味でアタリメ。こういうの、何百もありますよ。

例えば、こんな会で閉会・おしまいという時に「お開きにしましょう。」閉会は閉じる。これは人生を閉じる。死に繋がる。なので「お開きにしましょう。」「閉じる」の反対。

嫌な事を意味する言葉を口にする、本当にイヤな事がやって来るので、できるだけそれを使わないというのが日本人の心の中にある。忌み言葉。結婚式とか、ものすごく気を使うでしょ。クリスチアンの結婚式は全然関係ないです。結婚式でも、罪と死からの解放を語るから。

嫌な事を考えたり・思ったり・言ったりすると、嫌な事が起こる。これが、日本の憲法改正を阻んでいる原因じゃないかと言う人もいますよ。戦争を想定する憲法を作ったら、実際に戦争が起きると。21世紀に入っても迷信で生きている。

これは、全く科学的でも合理的でもないのですが、日本人・世界の人が考える言葉やイメージの中で最悪のものは死。だから、死をできるだけ口にしないように、病室も4号室はない。
天王寺の大阪市立大学病院、4階がある。僕、行きました。手術室でした。病室ではない。
でも、それはそれで怖いというか。そこで手術したら絶対失敗するとか。それは怖い。

前にも言ったかも知れませんが、JALに乗った時、ボーディングカードの番号が5番で、天井のナンバーを見ずに、前から1,2,3,4,5番座ったら、そこ6番だったんです。4番シートがない。不吉だから。
だけど、落ちる時4番シートの底だけ抜けるとか、ありえへん。落ちる時は皆一緒。

「嫌な事を考えないようにしよう」と言います。しかし、最初に申し上げたように、本当に大切なものを守りたいなら、最悪の事を想定して、それが来た時に脱出できる準備を前もってしておくのが1番合理的な考え方です。

聖書は「死というものがある。だけど死と向き合い、考えて、そこから逃れる事ができる約束のメッセージがあるから大丈夫ですよ」という励ましのメッセージ。
今日は、罪と死からの解決について、明快に語っている箇所を一緒に見たいと思います。

I ペテロ 3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

キリストも一度、肉において死に渡された。キリストも死んで下さった。しかし、キリストは聖霊によってよみがえられた。それによって、私たちが神の御元に帰る事ができる道を備えて下さった。

死の問題については、本当に多くの方が、普段は考えないようにしていると思います。
出雲の講演会で、1番後の席に8歳の女の子が座っていました。隣にお母さんがいて聞いて下さっているけど、この女の子の聞き方が尋常じゃない。大きくうなづきながら「はあー。はあー」って。
もう、生き甲斐を感じました。その子の方ばかり見て「分かるのかなあ」と思いながら。

後で聞いたら、「死ぬのが怖くて怖くてたまらない。」お母さんが用事があって、本人は聞いたかったけど、1時間のメッセージの20分で連れられて出て行った。
その時、私の脳の中に『赤い靴はいた女の子』、「異人さんに連れられて行っちゃった♪」の音楽流れましたよ。案外子供の時の方が、死の問題について、すごく考えるんじゃないですかね。

昨夜、息子たちも含めて、若者たち5-6人と聖書の学び会をして、昔話も出ました。
次男は社会人ですが、小学校の時、ゲームがムチャクチャ好き。当時はゲームボーイが流行ってて、青版とか赤版とかある。わが家ではファミコンを買いませんでした。ゲームは買わない。
私が子供の時にメチャクチャ好きだったから。ゲームコーナー、あれは身を持ち崩しますよ。
で、依存症にしたくなかったので「うちはゲーム機、買わない!」

だけど、友達のを借りる。それでメチャ上手い。今はパソコンゲームなど24時間やっているそうですが。時間決めて30分なら30分、ピタッと終わるならいいけど、終わった後もずっとゲームの事を考えている。話題がゲームやから、ゲーム・ゲームになって、顔がゲームボーイみたいになる。

ある時、これは良くないと。「君ね、捉われ過ぎ。それ、偶像。ゲームの虜。君はゲームの奴隷だ! ちょっ

と、のめり込み過ぎ違う？」その時、彼が言った事を今でも覚えてます。「お父さん、これでいつとき、死を忘れられるんだ。」さすが、クリスチャンの家の子や。「死ぬ」という事が1度入ったら、脳の中で連想ゲームみたいにグルグル回ります。「死ぬ。怖い怖い…。」

解決について語っているんですが、私の話が難しかったんでしょ。よう分からへん。だから、カタカタ脳の中を回って「死ぬ。死ぬ…。ゲームをしている時だけ忘れる事ができるから、仕方なしに…。」いや、仕方なしには見えんぞ、これ。

皆さん、いかがですか？ どうしてそんなにレジャー・楽しみ・日常の色んなスケジュールで、自らを追い立てるように忙しくしていくのか？ ふと人生の終わりに向き合ってしまった時、解決がなかったら怖くありませんか？

死の問題について、聖書は真っ向から語っています。「なぜ人は死ぬ事になったのか？ 神の御元にはいないからだ。」神は私たちのいのちのルーツです。その方と私たちが切れているので、その結果として死が入っています。なので、神の御元に戻る事ができるように、キリストが来て下さいました。

ある方は、「そんなややこしい事せんと、死そのものを消してくれたらいいじゃないか。」
そういう訳にはいかないんですね。勿論、死は忌まわしいものだと思いますが、クリスチャンになって、「死そのものは悪いもの。でも、ただ悪だけでもないかな」と思っているんです。

死がそんなに悪いものばかりではないと思う理由 ①；今左肩が故障していて、腱板損傷/筋肉の一部が断裂しているんです。今日も鎮痛剤、飲んできました。うがいのコップの水を飲むだけで「痛いっ！」遂に三角巾。あれ、なんか敗残兵みたいじゃないですか。「いやだ！」と言っていたら、「オシャレなのがあります。白じゃなくて青とかピンクとか。花柄どう？」花柄は嫌やから黒にしてもらいました。そのドクターに、「激しい運動した訳でもないのに、何で切れてるんですか？」「そらあ…、老化でしょう。」なんやろ、非常に不愉快で、もう二度と行くかという気持ちに。

だけど、最近そういうのが多いです。左肩だけじゃなくて、同時多発テロみたいにあっちこっち。多分全部老化と言われる。それを考えると、80代90代の人生の先輩方に対して尊敬というか、色んなものを背負っていらっしゃるんだなと思わずにはおれません。どんどん痛い所が出て来て、目も耳も鼻も口も、脳も筋肉も、骨も神経もダメになって行って・痛くなって・辛くなって・しんどくなって行って…。

もし死がないなら、どんどん苦しくなっていくという状況が永久に果てしなく続く。これが人生だとしたら怖くないですか？ 私、左肩でもう十分です。全身バラバラになって、それでも絶対死なれへん。ずっと痛くなり続け・苦しくなり続け・朽ちて行って、しかも絶対死ねない。「ひと思いに…」の気持ち。この肉体が朽ちて行く人生は、神様が私たちに味合わせたい人生ではありません。別のを用意して下さいます。

死がそんなに悪いものばかりではないと思う理由 ②；今年2月にポーランドに行って、アウシュビッツ虐殺収容所（ビルケナウ）第2収容所を訪れました。今から70数年前まで、ユダヤ人だけで600万人がヨーロッパ中で殺され、アウシュビッツでは100万人以上の人々が殺されました。彼らの剃られた髪の毛がそのまま置いてあったりします。

アウシュビッツ強制収容所にはお墓がありません。収容所そのものが墓なのです。

遺体は全部灰にされて、ばら撒かれている。人間を工場で解体していくような、オートメーションで能率的に殺していくような、本当に恐ろしい場所。

これは、ヒトラーが自殺するまで続きました。もしヒトラーが今も生きていたら、まだ続いています。絶対悪みたいな存在に寿命があるので、この世界の悪が、ある程度で留められているのです。悪が永久にのさばり続ける事ができないように、どんな権力者・独裁者・冷酷な独裁者でも寿命がある。それがなかったら、世界はこの程度の墮落で収まっていないと思います。人生は死でピリオドが打たれるので、独裁者が永久に大暴れする事ができない。その点で、死はそれほど悪いものではないと思っています。

死がそんなに悪いものばかりではないと思う理由 ③；死があるので、人はかろうじて謙遜にされるのではないか？何をやっても絶対死なないと思っていたら、今よりもっと無茶しないでしょか？もしかしたら、死ぬかもしれない。それで、身の程をわきまえた選択をしたり、余り凶々しい事をやらなかったり、こういうところではもう少し引っ込んだ方がいいとか、ブレーキがかかるんじゃないですか？

死が全くなかったら、一人ひとり、世に怖いものが1つもないという事になる。70億の人間が「怖いもの何もない」と言って、わがままやり始めたら、ミニ独裁者がすぐに強力な独裁者になるでしょう。死があるので、それに向き合っていく時「私は弱いなあ。」「助けが必要だなあ。」「恐ろしいなあ。」「どうして人間は死ぬものになってしまったんだろう？」死があるので、祈りや、信仰や、何か人間を超えた大いなるものを求めるようになるんじゃないですか？

聖書では、1番不幸な人は「神から離れていながら絶好調の人」です。創造主から離れているけど、やる事なす事、全部上手く行っている。「俺は世界の中心として十分やって来れた。これからもやって行くわ!」神の前に立ち返る動機付けが全くない。

しかし、死を目の前にした時「やっぱり、かなわない相手がいた。この現実、私はどうしよう…」と、初めて、自分がただの被造物である事が身に染みて、我に返るのです。なので、神様は最終的に死を無くしますが、一足飛びには無くしません。神から離れたこの世界で、もう1度ご自分の御元に引き戻すために必要なものとして、死を用いておられる面があると思います。

出雲でもそういう話になったのですが、神様は慰めの神です。だから、既に大切な方を亡くされた方は神様に委ねてください。どういう意味かという、クリスチャンは供養/先祖供養をしません。これは、クリスチャンが先祖や亡くなった身近な人たちに対して冷たいからではないのです。「生きている人が、既に亡くなった人に対してできる事は1つもない」という事を知っているからです。何もありません。神様は憐み深い方だから、亡くなった方については委ねるのです。

以前聞いたイギリスの貴族の話。今でもイギリスには貴族がいます。チャーチルの家、確か大阪府より大きかったと思います。大阪市じゃないですよ。イギリスの貴族は、少なくともチャーチルの時代、国会議員は給料をもらいません。自費。困らないから。そんな生活、想像もつかない。だからこそ、賄賂とか関係ない。少なくともチャーチルはそうだったと思います。とにかく彼はお城に住んでいるんです。城って、城ですよ。玄関開けて門があり、門番がいて、突っ切って、第1の門・第2・第3の門を抜けて行く。

ある貴族が鷹狩りとかで、馬に乗って獵に出かけたら、お城を出た所で毒蛇が馬に飛びつきました。馬は賢いので、蛇を避けようとして、すぐに前足をバツと上げたのですが、急に上げたので、貴族は空中

に放り出され、そのまま地面にドーンと激突。彼は作品をたくさん書いている作家でした。

『キリストなんか神じゃない』という作品。「キリスト教なんかダメ。神なんかいない。信じない。」無神論。色んな人たちと対論や反対論を闘わせても、全然影響を受けず神を信じない。そんなコチコチの無神論者の哲学者・教授・作家で、身分は貴族。ところが落馬する時、空中に放り上げられている2秒くらいの間にクリスチャンになったんです。

「危機的状況の中ではスローモーションのようになる」と言うじゃないですか。あれ、ホンマですよ。僕も小学校5年の時、クラスメートに2階の窓から捨てられました。そんな経験する人いないでしょ？したね。彼は、冗談で窓から放り投げるフリをしようとして、手元が滑ったんだと思います。

「あっ」と言った時には屋根をゴロゴロゴロ…。高野山のお寺から落ちました、私。屋根から地面まで3mくらい。劇画/アニメであるような、真っ暗な中「あー!」。めっちゃ長い。落ちながら「早く地面に着け!」と思っていた事、覚えてます。背中からドンと落ちて、息止まった。意識あるのに息止まるってどういう事?生きてて息を吸おうとするけど、横隔膜がショックで吸えない。これも怖いよ。二度と嫌です。でも、「決定的瞬間で色んな事を考える」というのは本当やなと思います。

彼の場合は、跳ね上げられて落馬し、地面に追突する数秒の間に、パチンとキリストが分かった。「打ち所が悪くて頭から激突していたら、首の骨を折って死んでいたかもしれない。私は『神はいない』という本をたくさん書いてきたので、人々は私がキリストを呪って死んだと判断し、皆の心にそう残るだろう。しかし、現に私は、あの数秒の間に信じたのだ」という証しがあるのです。

つまり、既に亡くなった方がどうなったかは、生き残っている私たちには分からない事なのです。だから、委ねるんです。あなたの供養によっては何にもならないです。生きている人が、亡くなった人に対してできる事は1つありません。神は良い方。賢い方。憐み深い方。この方にただ委ねる事が、とても大事ではないかと思えます。

私たちが神様の元に戻って、死の問題を解決するためにはどうしたらいいのでしょうか？

I ペテロ 3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。

神から離れる事が罪で、それが死の原因。死の解決のためには、神に戻るという事が必要なんです。神に戻るためには、私たちの罪が帳消しにされなければなりません。そこで、**正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。**

そして、裁きを引き受けて下さる事によって、私たちの罪を帳消しにして下さいました。

ところで、**正しい者が正しくない者の身代わりになる**って、ものすごい事ですよ。

数年前、ある地方都市の伝道旅行で、とても聡明なご夫婦とお会いしました。

一生懸命聖書を読んで、幸いな事に、集会でキリストを受け入れ、今でもメールのやり取りをしています。その方が東京にいた時、お子さんを〇〇大学付属幼稚園に預けていました。幼稚園の時から英才教育とかエリート教育で、それはそれいいのですが。

あるママ友が、あろう事か男性の保育士と不倫していて、それを彼女は知ってしまった。そのママ友はとても大事な人だし、ご主人の事もよく知っている。不倫を知った時「他人の事だから関係ない」と思うのも1つの対応です。でも、彼女はものすごく正義感の強い人。皆さんなら、どないしはります？結局、彼女は対決しました。「絶対あかんから。やめなさい! やめなかつたらご主人に言うよ。」

しばらくして、幼稚園でウーと噂が流れた。彼女が不倫しているというフェイクの噂。

「言い返したらいいじゃないか」と言うけど、おれなくなって、家ごと引っ越して、ご主人の実家の所に戻りました。その後、彼女は重い鬱です。すごく健康的な方だったのに。「なぜ、こうなったの？ 悔しい！」
正しい人が正しくない者の代わりにレッテル貼られ、濡れ衣着せられ、身に覚えのない事なのに「あなたがやった」という事にされてしまって。勿論、心ある友人は信じてくれていますが、闘って行く気力がなくなって身を引きました。

この箇所を読んで、「正しい人が正しくない者の代わりになるって、どんなにストレスか分かりますか？ 私はこれで病気になったんですよ。だけどキリストは、正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。なぜ、こんな事ができるのでしょうか？」

濡れ衣を着せられた場合、正しければ正しいほど、赦す事ができなくなります。でもよく読むと、ここではキリストは「正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです」ではなく、「身代わりになられたのです。」無理やりさせられた身代わりではない。ご自分の意思で買って出た身代わり。つまり、キリストは十字架にかけられたのではなくて、かかりに行かれた。

「これ以外に、人の罪を拭い去る手段は他にない」という事が明らかになった時、キリストは迷う事なく、正しい方なのに正しくない者の身代わりになられました。自分の意思で。その動機は愛です。私たちが何としても救いたいという愛で、そうされたのです。

最後に1つお話をして終えたいと思います。

「信仰」という言葉は、ヘブライ語でもギリシャ語でも同じニュアンスを持っています。ヘブライ語では「エムナ」。これは「アーメン」。同じ語根。意味は「その通り」「真実」「信仰/信じる」ギリシャ語では「ピストゥス」。意味は「真実」「信仰/信じる」なぜ「真実」と「信仰」が同じ単語なのか？

太宰治（だざい おさむ/1909-1948/M42-S23）の代表作『走れメロス』。彼の作品の中では、珍しく後味の良い作品です。太宰の作品は、読んだ後で何か苦くないですか？「二度と読むか！」と思いながら、気がついたらまた手に取ってるという、グミのような感じ。グミ、食べ出したら止まらない。

『走れメロス』には、大きく言うと3人の登場人物がいます。シラクサの猜疑心の塊の王様。「人間なんか信じられない。いつも裏がある。汚いものだ。」

その王を暗殺しようとして失敗し、死刑判決を受けたのがメロス。メロスには妹がいて、彼女の結婚式があるのですが、自分以外に身寄りがない。「一目見るだけでも」と言って、死刑執行に3日間の猶予をもらい、親友のセリヌンティウスを自分の身代わりに立てました。3日以内に戻って来なかったらセリヌンティウスが死刑になります。

いよいよメロスが40 km離れた妹の村に行こうとする時、王様が耳元で囁きました。「遅れて帰って来たら、おまえの罪は赦してやるぞ。ワザとでもいい。遅刻したら赦してやる。」「何と無礼な事を言うんだ！」とメロスは振り切って走って行くのですが、40 kmと言えばマラソン。予期せぬ事の連続の中、結婚式にギリギリ間に合って、一目見て、すぐにリターンしないと間に合わない。ところが、あまりの疲れで睡魔に襲われ、走りながら、ガクガクになりながら寝る。

それでも無理して走っていると、段々熱が出て来て、頭痛が激しくなり、気持ち悪くなって、もう体が動かない。しかし、親友を見捨てる訳にはいきません。

ところが川を渡ろうとしたら、数日前の大雨で洪水。橋が流されて渡れない。それで遠回りしたら、追いはぎに遭う。すぐに行って、すぐに帰って来てもギリギリなのに、次から次へと想定外の事が起こる。もう間に合わないんじゃないか…。ふっと「できるだけのことやったやん。裏切ろうと思ってるんじゃない。できる限りのことはやった。だから…。」だけど、その誘惑を振り切って処刑場に着くと、まさに処刑の直前。

その時、メロスが親友に向かって大声で叫ぶシーンがあります。「友よ！俺を思い切り殴ってくれ。実は1回だけ悪い夢を見た。『体に鞭打って走る事はもうできない。遅れてしまおうか』と。こんな汚い心の持ち主が、そのまま君を抱擁する事はできない。だから、友として迎える前に、俺を思い切り殴ってくれ。」

セリヌンティウスはバーンと殴りました。殴った後で、この親友が言うんです。「メロス、同じくらい強く俺を殴ってくれ。実は3日の間1回だけ、チラッと『アイツ、来ないんじゃないか?』と疑った。今までの人生で、初めて君を疑った。そんな私が友として抱擁する事はできない。だから殴ってくれ。」

メロスがバーンと殴りました。そして彼らは、わだかまりを全部解いた上で、ハグして「処刑して下さい。」シラクサの王がそれを目の当りにして、「本当に信頼しあえる関係がこの世にあるのか。何と羨ましい。何と美しい。何と偉大で厳かなのか。」そしてメロスを赦した。という短編小説。

これは太宰のオリジナルではありません。シラーという作家が『人質』という詩を残しています。それをモチーフにして肉付けしたのが『走れメロス』。太宰自身の人生の中からは、絶対に出てこない物語なんです。

私は毎年青森に、今は博物館になっている太宰の家に4回くらい行きました。めっちゃでかい家。家がそのまま博物館になんねんから。2階の障子に字がバーツと書いてあって、勝海舟の字らしいという噂。勝海舟と書いてあるけど、その頃、彼の偽のハンコが出回って押しまくっているから、ホンマかどうかわからへんと。

学芸員に付き添われて色々見て行くと、太宰という人は「乳幼児の時に基本的信頼関係を持ち損ねた人」という印象があります。勿論お母さんがいますが、実のお母さんに抱いてもらった事がないんです。お母さんは病弱。子供はいっぱい病気をするから、お母さんにうつたら大変だからと。それで、「たけ」という乳母に8歳まで世話してもらいました。『津軽』という作品に、30年ぶりくらいにたけと再会を果たして、2人で土手で川を眺めながら、語る事もなく佇んでいるシーンがあって、しみじみと「自分の故郷はお母さんじゃなくて、乳母のたけなんだ」という事が書いてあります。

『走れメロス』の登場人物の中で、太宰はシラクサの王です。その後の作品を見ていったら分かるように、彼は本当のところでは人を信頼できない。「信頼できるものがあつたらどんなにいいか」という憧れは持っているけど、人生でそういう人と出会った事がない。

それで、シラーの作品を見た時、衝撃を受けました。「こんなに信頼できる関係があつたら、人生はどんなに素晴らしいか。信仰できたらどんなにいいか。」信頼できないのは、信頼できる経験を今まで積んだ事がないからです。

